夕刊 磐城新聞
五月二十二日發行
日曜祭日翌日休刊

斷片的童謠私感

（上）

坪松一郎

いつも私をとりまく子供達にも判る様な言葉で童謠を書き度いと思つてゐる。其れがために私は、大人の高い立場から見て最近再び問題になつてをる子供の常用語、私を取まく地方の子供達の方言をすら、ことさらに思はれる程、取入れてゐる。これに付いての問題は、つきつめれば現代國語教育の見地からの可否論であらうが、私は強いて私自身の童謠を國語教育の資とする必要もないし、國語教育のみならず現代のあやまられた主知的教育全般に渡つて如何に純眞なる子供達が、ゆがみゆがまされねばならぬかをも知つてをるので、私自身少くとも私をとりまく子供達にだけでも、こうしたことを強いたくはない、と思つてゐる。又現在の教育的な童謠についてのとやかくはぬきにしても今更私如き、そうした方面にうといものがことさら力ゝ入れる必要もないし、私自身そうしたことに興味を感ずるより、むしろ胸苦しさを感づる位なのである

□

こうした社會に生活して個々人の自由が大人にしろ子供にしろ、どの程度まで許容され得べきものであるかも知つてをる私が書く私の童謠が、私の血であり肉であるならば如何なる作品に於ても私の體臭が強く滲き出されねばならぬし父よかれあしかれ私はそれを望んで居るものである

□

大人の目からみた藝術的童謠としての表現構成、此等は童謠の一つの部面として論議されもし、其等に付いては充分努力されねばならぬのであり、現在もつと勝れた童謠詩人の部に屬する舊チチノキ系の中堅作家のいづれもがこうした傾向の藝術童謠開拓のため全力を擧げてをらるゝことは私自身にしろ嬉しいことでもあり、將來の童謠壇のためにも嬉しいことであらねばならない

幸うすき人

井出口もよ子

○われよりも幸うすき人ありと云ふ安堵先にたつ心かなしも
○夕膳のとゝのひて時のまた經たり耶蘇教會の鐘の鳴り出づ
○葬式の列着きたるらし寺の鐘病みては寒くしみわたるなり
○日本國中目の下に見ゆ心持にて蛾の群をば見守りてゐる
○その中に階級もあらむ義理もあらむ宛ある如く動く蛾の列
○一様にこの數しれぬ虫の中よりなどわれ汝を選びしと云ふか

本社主催短歌會

日時 五月二十四日(日曜)午後一時
場所 松ヶ岡公園尼子亭
會費 金二十錢
兼題 『風』 二首 『初夏雜詠』 二首
(當日は本紙歌壇の小山田前、新妻現兩選者出席の筈)

影を抱く女

8

山路不二男

お嬢さん然たる、高貴な相貌、上品な四肢、華婿な骨格の中から、泉の奔流する如くに、湧き出る勞働慾か、柔弱な体質の持主である靖司に、殊更に驚かさ感心もした

『文ちやん、何處の女中學校を卒業した?』

こんなことを眞面目に訊いたりして

智子の場合、妹のきび〱とした活潑な働き振りで、誰の手も煩すことなしに、數多い雜務を手際よく處理して與れるので、感謝してゐたが、反面、眞似も出來ないほどの立廻りをしながら、少しの疲勞の樣子もない健康さに、淡い羨望の念を抱いた。智子は、一寸過激向いた(例へば、洗濯のやうな)勝手仕事をすると、直ぐ降參して了つてゐた。病後の故か、体質と云ふのか、外見健康さうに見えても、一點無理のきかない弱味があつた。それを切齒しながらもどうすることも出來ないのと同樣、文學と謂ふ同一の意思に結ばれた、感情の連鎖による靖司と文子の語らひを聽く時、一抹の寂しさを覺え、日毎に擴大し深刻さを加へていつた

智子は、一つの新しい心理分野を發掘した。新しい心理の動きが、自己批判よりなつて、趣味の(性格と云つてもよい)不一致に基く夫婦生活の生命性、また伸び、暗い影に追ひ込まれてゐた。嘗て、母が冗談ごとに言つた。——靖司と文子が一緒になると良かつたらうが——そんな根もない些細のことまで、癒れた切傷の再發したやうに、古い記憶がまざ〱と呼び返されて來るのであつた。——互に不足分を補ひ合ふのが夫婦道の要諦だらう、性格の相違は結婚の理想となる譯だ、靖司と文子で夫婦じやつたら、毎日〱犬も喰な、夫婦喧嘩で暮なしだ

追憶

辰巳和子

細雨の街を行く
君が濃きむらさきの色の
雨コート、色の映ゐつつ
花あやめふとも偲ばせ——

あはれ 去年
五月立つ日は
挑割れの美し人と
肩並めて歩みしか

憶ひ出は 今も抱けど
間もなくして君遂に嫁ぎ
給ひぬ
五月なるあはれゆかりの
あやめ花 咲ける佳き日
に——

觀村山淨水池

珠雲 小野務平

紺碧欺藍十里塘
漫々渡岸漾天光
萬千民庶忘枯旱
慶福兹開仰水塲

5月23日

△坂上田村麻呂薨去(弘仁二)△伊藤博文兵庫縣知事に任命(慶應四)△我國最初の輕氣球飛揚(明治一〇)△大野村で母子心中(昭和一〇)

小説 高橋是清

(20)

松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫

幸運の萠芽 (五)

道の兩側に、群集の波がひしめいてゐた。尾州侯の參覲交代のお行列を、見物に來た人々だが、何分御三家の一として、その行列の壯美さは、夙に評判のものであるだけに、人波は長く續いてゐた

『來たせ、來たせ、來たせ!』

間もなく、誰かゞ叫んだ

群集の喧騷がやんだ。蹄の音が近く聞えた

その時、南側の人波の間から、ひよツくり顔を出した子供が、もの珍らしげに左右を見廻した。それを、反對側にゐた、町家の女房風の女が素早く見付けて

『坊ちやん!坊ちやん!』

小聲で言つて、手招きした

子供は和喜次だつた。女は嘗て和喜次を養子にと望んだ、三田聖坂の菓子屋の女房だつた。日頃ひどく可愛がつてゐたので、呼ばれると、和喜次は喜んで、前後を見る暇もなく、走つて道を横切らうとした。群集の中から

『引ツこめろ。危ねえ危ねえ!』

と、叫びが飛んだ。それを合圖のやうに、和喜次は小石に躓いて、毬のやうに投出された。その瞬間、騎馬武士が二人、前衛と見ゆい、鹿毛の鼻面を並べて、疾風のやうに眞正面に迫つた

『わあッ!』

一時、群集が喚いた

奔馬は、砂塵を殘して、もう遙か先きに、蹄音を響かせてゐた

列を崩して走り寄る群集招いた女房は、狂氣のやうに、その人波を分けた。和喜次は、砂に塗れて、地に突伏してゐた

『ぼつちやん!ぼつちやん!』

脊にくツきりと印された蹄の跡に恐怖の眉を顰めながら、悲鳴に似た聲と一緒に抱き起した

が、意外だつた

和喜次は、砂によごれた顔を擧げると、例の、特有の愛嬌笑を浮べながら

『坊、轉んぢやつた。お馬可怖かつたよ、小母ちやん!』

と、頰の砂を拂つた

『まあ〱!』

女房は、さう言つたきり安心と緊張の名殘りとに言葉が緩かになつた

『大丈夫だ、傷一つ負はねえ』

『笑つてゐるやうだせ』

『運のいゝ。だが膽を潰したせ』

『全く運のいゝ子供だ』

群集もホツとして又一しきりざわめいた

『偉いもんだ。あの時武士がちツとでも慌てゝ、手綱を締めでもしやうものなら、一たまりもありやしねえ。流石は御三家の尾州樣の馬乘りだ』

そんな風に言ふ者もあつた

『おゝい、道へ出ちやあ駄目だ。下つた〱。下れ!……』

町役人らしい男が、狼狽て叫びながら走つて來た

和喜次を抱いた女房が眞先きに列へ戻ると、群集も引潮のやうに後へ下つた

行列が近づいて來たのだ

聲もなく靜まり返つて雜然と居流れた人波の中を行列は美々しく整然と練つて去つた

人波が再び崩れると、その行列の評判よりも、今目前に演せられた、殆ど奇蹟的な出來事に、より群集の興味は曳かれてゐた

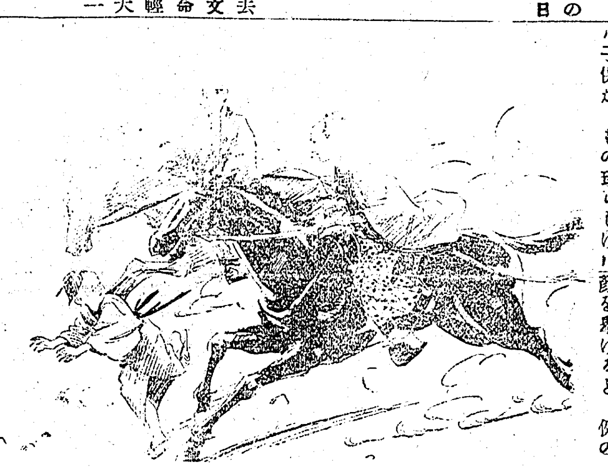
『仙臺様の足輕長屋の、高橋てま人の倅だとよ』

『滅法運のいゝ坊主だせ』

『全くよ。仲々拾へる命ぢやねえかつたからな』

この幸運兒の評判は、それからそれへと傳はつて仙臺家中の噂にまでなつた

この評判が、五歳の和喜次の印象に殘らぬ筈はなかつた。そして自分を幸運兒と信ずる氣持が、樂觀の萠芽を次第に大きく、育くんでいつたものであらう



友部株式店
株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
平町三丁目 電話一七七番

電話開通記念
大景品附大特賣……
曾て御求めになつた事のない高級レコード
此の際に限り、三枚壹圓也
其の他有名品從來壹圓五拾錢のレコード此の際に限り壹圓貳拾五錢
…漏なく景品進呈…
平町四丁目局前
天下堂
電話七一五番

電話増設
電話七一七番 會長宅用
平町大町二〇
磐城無盡商會
電話三七八番

電話設置披露
電話七二一番
日本瓦斯工業株式會社 瓦斯發製機代理店
ダイナモ バツテリー マグネツト 電氣ドリル 船舶用發電機
久野電機
福島縣平町紺屋町五三

耳鼻咽喉科
高柳醫院
平驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明
(入院應需 自炊ノ便アリ)

産科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町 (元合津醫院跡)
電話五五九番

食事、喫茶、酒場を兼ねた
初夏のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

銅器・竹製品・籠盛花投入一式
生花用花器
平町二丁目
(和) 和久井屋
電四〇五番

坊やの名前
五月青葉のそよ風と生れた可愛坊や
姓名學で名をつけて日毎に太つて丈夫にそだつ、やがて黄金の波湧きて、一生幸福良い名の坊や
日本姓名學會東北支部長 鵜沼孝昌 (平町紺屋町三六)

大至急
會員募集
年齢、學歴を問はず堅實なる婦人を望む
上原家政婦會
平町紺屋町
電話二二番

夜間診療
胃腸 性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物金物問屋
(久) 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座 東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

依然躍る黒ダイヤ 一日平均七十車増送
飛躍的數字の中旬統計

炭界明朗

夏の需要薄季に當面して漸減の豫想されぬのではない常磐炭各山元の去る十一日以來二十日迄の發送量は營業用四、三八四車 五一、八五八廸 省用一、四四九車 一八、二四二廸 合計五、八三三車 七〇、一〇〇廸で前年同期に比し

(増差) 營業用七六一車 七、三一四廸 省用一五三車 二、一〇九廸 合計九一四車 九、四二三廸

と云ふ飛躍的數字を示し、上中旬通計の増差は既に千五百車一萬六千七百三十三廸に達して居るので月計に於ては二千車二萬廸の激増を示すではないかと極めて明朗なる見込がつけられてゐる

全縣の九割を占む 郡下水産關係被害
小名濱附近が最激甚地

縣水産試驗場では先般來今冬期の水産關係被害の調査を行つてゐたが二十一日工水産課より發表された處に依ると、縣下總被害高は六萬三千五百二圓でその他漁業施設の被害算定不明のものを合せて價格は七萬七千二百九十六圓に上りうち本郡は五萬二千二百六十七圓といふ殆ど全被害額の九割を占めて中でも小名濱附近は慘禍の最も激甚地であつた、被害の類別を見るよ製造減少並に漁獲被害額七萬三千三百五十五圓で鰈、鮃、鮒が大部分を占めてをり、漁獲施設の被害は三萬九千餘圓の梁である、なほ梁、鮃、鮒は主として海岸を離れた中通り會津方部一帶に分布された然も今回の雪害が主にこの方面であつただけ被害も適度りに比較し相當甚大なものがある

豚と馬は 縣下第二位
本郡の家畜調べ

本郡の昭和十年末現在に於ける牛、馬、緬羊、豚四種の飼育統計は二十一日縣統計課から發表されたがこれによる頭數は

(豚)三、六七二頭 (緬羊)二二六頭 (牛)四七二頭 (馬)八、三一九頭

で縣下の郡市別に見ると豚は伊達郡の三千九百四十一頭に次ぎ、馬は田村郡の九千二百六頭に次いで何れも第二位と云ふ好成績で牛は最近勃興して來た緬羊飼育は尚開拓の餘地も相當ある

奥羽銀行の同盟會總會
磐東金成氏出席

第五十回奥羽銀行同盟會定時總會は來月七日午前十時から川越大藏次官及び山内日銀理事を迎へ郡山市會議事堂において開催されるが出席約百二十名の豫定で開會に次いで幹事銀行頭取(郡山商業銀行)の挨拶、議長選擧、會務會計報告並に審査議事に入り、終つて記念撮影を行ひ續いて川越、山内兩氏の講演あつて閉會その後約一時間淨水場、開成館、競馬場、農事試驗場、日東、名古屋兩紡績會社、專賣局、籠山公園等を視察し午後四時から公會堂で開かれる懇親會に臨むはず、地方よりの出席は植田町磐東銀行支配人金成金三氏一名のみであると

。。。中堅農民現地講習。。。 石城中堅農民講習生白餘名の現地講習は來月六日上遠野村で行ふ

第一虎眼増加 平第

白鴉會畫展
入場料五錢を徴す

磐城中學校卒業關係によりなる美術團体白鴉會の第四回作品展覽會は來る二十七八、九の三日間(最終日は晝間のみ)午前九時から午後九時迄平町四丁目マルトホールで開催される、入場料五錢

平町女子青年團總會
明後廿四日豊間校で 篠山顧問の時局講演

平町女子青年團春季總會は明後二十四日の日曜日をトして午前八時半平驛前集合バスに分乗して豊間村に向ひ同村小學校講堂に開會、式、豫算報告、宣言、決議等の後同團顧問篠山康氏の『非常時局下に於ける女性の覺悟』と題する講演を聽き、閉會後鹽屋崎燈台見學、沼之内辯才天參詣、午後三時過ぎ同所に解散する豫定であると

。。。。消防施設視察。。。。 栃木縣太田原消防組員十餘名は今二十二日來平、平消防組の消防施設に就き視察した

。。。。平商野外敎練。。。。 平商三年生約百名は今二十二日佐藤配屬將校指導の下に好間村川中子方面で野外敎練を行つた

教務主任會
あす第二校で

郡第三區(平外十三校)教務主任會は明二十三日午前九時から平第二校に開き研究題『宗教的情操陶冶の具体案』に就いて討議、外左の談話題を協議すると

其校學級經營案作成上の基準承りたし　其校兒童訓育の方針並に施設狀況承りたし

。。。。堀口督學官來平。。。。 文部省督學官堀口きみ子女史は來る二十八日磐城高女の視察を行ふ

。。。。體操科主任會。。。。 郡第三區體操科主任會は今二十二日午前十時から平第一校講堂で開き今年度行事に關し打合せた

軍艦木曾─愈よあす小名濱へ
全町擧げて海の勇士を歡待 平でも軍樂隊演奏會

軍艦木曾は今度年海上簡閲點呼のため愈々明二十三日小名濱港内に晴の勇姿を現はす事となつた

茨城縣湊から一般乗客七十名を乘せた同艦は午後一時半入港、翌二十四日には午前中點呼をすまし午後一時から四時迄一般の觀覽を許可、二十五日午前六時、朝霧を衝いて宮城縣女川に向け出港(便乗者六十五名)する事となつてゐる

地元小名濱町では全町擧げて海の勇士を歡待入港の二十三日夜六時から同町新米島の兩神社に艦長岡新大佐以下將校を招き盛大な歡迎會を開き水兵達には四斗樽二本と罐詰類を贈り遠來の勞を犒ひ、又軍人分會では同夜小學校で平町分會でも既報の如く二十四日午後一時から第一校で同艦軍樂隊三十餘名を招き記念演奏會を開くと

便乘許可者
平町から十九名

平町からの軍艦便乘を許可されたものは湊川から小名濱迄は十七名、更に宮城縣女川迄は希望者四十三名中二名しか許可されぬのでけふ午後から抽籤で決定した

拈華微笑
(今日の問題)

實施早々の衆議院議員選擧法は『その成績が法の趣旨に反し、社會の實情に副はぬ點が甚だ多きを認むる』と云ふ理由の下に政府は速かに之が改正委員會を組織し、本法並に附屬法の全般に渉り、審議をつくしてこの改正案を來期議會に提案すべくその決議が明二十三日上程される事になつた。之によつて法の適用が緩和されるとせば事件の頻發に惱ませられた當局も選擧大衆も共に改正に惠まるる處少くあるまい、朝令暮改も實情に即した改善は喜ぶべきである

×

これと同時に議會革正案と云ふのが『時勢の推移に鑑み衆議院の機能を一層發揮し、その能率の增進を圖るは方に緊要である』として之亦次期議會への提案決議が上程される。憲政布かれて半世紀、些か六菖十菊の感あると云へば云へるが尚は昏々と長夜の眠りより醒めぬのから觀ると優る事萬々なるは云ふ迄もない

×

神輿揉みの禮讃が過ぎ、思想善導のパイオニアたる身の程を忘れた負傷警官に對する脫線的批評から散々締められた神官山名碧、惡歷のを碧い思想とでも云ふのか

×

東北振興、東北振興電力兩會社に對する希望條項整理打合の會議で六縣知事の希望事項が悉く一致し極めて明朗な氣分を漂はせてゐる、小異を捨てゝ大同に就くの必要を敎ゆる實物敎育たるを失はない

×

軍艦木曾、愈々あす潮風薫る小名濱に入港。まさに海國日本の象徴たる壯觀

川前村に 痲疹流行!
學童十數名欠席

川前村小白井部落に惡性の痲疹流行現在の處死亡者は無いが小學校兒童十數名が休校して居る

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩は北東の風晴後曇
明日は南東の風晴後曇

性慾─倒錯と虐性
愛慾の妖鬼阿部定と その方面の歴史

愛慾の妖鬼阿部定のグロ的變態殺人事件は大体一段落のかたちである。恁うした性慾倒錯に就て某の分類によると

1虐性 2被虐性 3性的狂崇 4同性姦 5屍姦 6獸姦 7淫虐的兇殺狂 8性的亢進症 9屍好淫狂 10局部露出症

であつて[illegible]の[illegible]で犯罪と非常な關係のあるのは他人に苦痛を與へて快感を覺える虐性と異性の身体に附屬してゐるものをもつて性的滿足を覺えると云ふ厄介なやつである。而して今度の阿部定の問題は嗜虐性なる文字を用ひて居る處から1の場合に該當するものと觀られるが7以下の何れとも夫々の關係を有つて居るであらう事は兇行前後や宿屋で按摩に揉ませ乍らとつた行動などの新聞記事によつて吾々素人にも略ば見當がつく

0

他人に苦痛を與へて性的滿足を得る虐性は古來幾多の例がある。而も之は人を殺す事によつて快感を覺ゆると云ふ殺人淫樂と云ふ恐るべき特異性を誘發するものである。殷の紂王の妃、妲妃は姙婦の腹を割き其の苦しむのを見て喜んだと云ふし、又我國の豊臣秀吉は一[illegible]人の罪人を斬つてそれで心が和いだと云ふことである

0

二十八歳の男が曾て犬の溺れるのを見てから、生物の溺るのに無上の興味を持ち、或る時路上に遊んでゐる四つの男の兒を拉し去り程近い處にある深さ一丈五尺の古井戸へ投げ込み終に死に至らしめた──と云ふ戰慄すべき事件が大正十四年の夏東京の世田ケ谷にあつた。全く物騒な虐性の好適例である

0

人智の發達如何、文明[illegible]明暗に論なく、斯る性慾狂者のあるものと見られて、小説物語りにも之を取扱つたものがある。田山花袋の『蒲團』が性的弁崇を、菊地幽芳の『毒草』が屍姦を書いてあり、事實の問題としてこの平町にも十年ばかり前女の身のまはりのものを盜みためて居たと云ふ禿げあたまの帳場さんがあつた事を耳にした事がある

北
西─○…東
南

軍艦木曾 / 神輿は暴れるものだ
一杯機嫌で口走らした 夏井の神職に大目玉

夏井村大字藤間字松原七〇村社新山神社々掌山名碧(三三)老、神輿事件の突發して三日目の去る十八日午後二時頃平町三丁目三井呉服店前で『神輿は暴れるのが當り前だ、巡査がついてゐるのが惡いんでそんなものは死んでもよい』と一杯機嫌で暴言を吐いた事平署の耳に入り昨二十一日早速特高室に呼び出され『國民思想善導の神職ともあらう者が何だ!』と大目玉を頂戴

爆發一周忌を迎へ─入山坑で祈願旅行
吉田所長以下茨城方面へ

入山炭礦では來る三十一日の日曜日、ガス爆發事件の一周忌を迎へ遭難者の供養と從業員の息災を香取、鹿島の兩神社に祈願する事となつた

當日は役員百五十餘名が吉田所長引率の下に出發先づ成田山に祈願し、更に香取、鹿島の兩神社に祈願をこめた上汽船で水郷廻りをなす豫定である、尚これが旅費は昨年の同事故發生以來の積立金で當てるものであると

火藥庫荒し 錠前はそのまゝ
平署で捜査に苦心

平町一丁目銃砲火藥店渡邊貫一氏所有飯野村谷川瀬の火藥庫荒し(三十二型ピストル實彈五十發、十二番獵銃用彈二十六發竊取)事件は發見の一昨二十日以來引續き平署で犯人捜査に當つて居るが未だ目星もつかない去る十五日午後三時頃同家の者が調べてから發見されたヽ十九日午前九時迄その間五日間もたつて居るのでこゝに捜査の苦心があるらしい同署の調べた處によると倉庫の錠前には全然手をつけた形跡なく、扉の敷居を破壞して侵入したものではないかと云はれて居り時節柄重大事なので目下各方面から觀た資料で捜査を續けて居る

人騒せな─湯本の怪死体
解剖で縊死と判明 原因は病苦と失職か

昨報、湯本町傾城地内雜木林で發見された小名濱町定西須賀通り長瀬マツキ弟の泉村生れ小泉重益(四六)の死体は死因に不審の點があるので直に解剖に附した結果縊死で他殺の疑が晴れ、附近の叢から發見された細紐により縊死したものと判明した、自殺の原因は昨報の如く腦病と失職を苦にしての結果らしい

二十三日
日出 四、二七　月出前 六、一九
日沒 六、四一　月沒後 九、一四
滿潮 前三、五〇 後六、四〇　干潮 前一一、三〇 後一一、二五

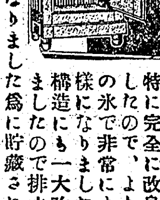
舊四月三日 土曜 乙巳 赤口 建 柳宿 新五月二十三日

階判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 無謀短氣に走り易き日何事にも愼みが肝要▲二黑 運氣盛なる日名弘企業開店等何れも大吉▲三碧 至極穏かうの日なかすとも思ふ所に達す▲四綠 依頼心を起さず自ら進む時は發達を遂べし▲五黃 温順質朴を主としうまさる時は發展大なり▲六白 初め吉なれど終りを愼むべき日金錢殺因▲七赤 心忙しく後ろから火に追かけらるゝ如し▲八白 運氣盛く足までの難事も一掃せらる▲九紫 先き走る時は思はぬふちに陷る急ぐ可らず

廣告

僅かの氷で非常に早くよく冷ゐる
……丸ほん冷藏器……
御家庭にも御營業にも最も理想的な冷藏器……



今年は外壁の絶緣裝置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える樣になりました、內部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました爲に貯藏される期間も延長されました。價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量製産の爲め良品を廉價に御提供する事が出來ます。

株式會社 (本) 丸ほん商店
營業所 平町三丁目一六 電話三五九番 振替東京二一七二四
製作所 平町新田前 電話一八二番

電話 七一九番(シチトク)
平町白銀町
御膳 生そば 新扇屋そば店

高久病院
院長 高久忠
平町田町 電五一三

夏ノ流行洋品
麥一文字帽
パナマ帽子
晴雨兼用絹傘
流行パラソル
ツルヤ
電一四〇
涼味豊カナ本年度新作品ヲアマタ取揃ヘマシタ…